

## 労協連委託研究2011年度報告書

# 食と農と環境を結んだ仕事起こし

## 農業ネットワーク会議を中心に

### はじめに

ワーカーズコープという組織として農業・環境分野に関わっていったきっかけが2つある。一つは労協クラブ(一般社団法人日本フロンティアネットワーク)の提案から発した「菜の花プロジェクト」であり、もう一つは農林水産省の『田舎で働き隊!』事業(農村活性化人材育成派遣支援モデル事業)の取組みである。

「菜の花プロジェクト」は、琵琶湖の水質浄化のため、石けん利用促進運動の流れの中で生まれた。菜の花を植え、油を搾り、廃食油を集め、石けんやバイオディーゼル燃料をと一連の流れができています。

ワーカーズコープにおいても、地域と繋

がりや仕事の創造の一環において、休耕地を活用した菜の花の作付、菜種の搾油、廃食油の回収、バイオディーゼル燃料の精製と農や食、環境分野へ突入していった。

もう一つの「田舎で働き隊!」は、都市部に展開するワーカーズコープが、農山漁村との交流、移住、定住を進めるため、地域の農業、林業団体や行政と連携を取りながら手探りで始めた事業であった。1年という期間で都市部の人間が田舎で生活し、1次産業に関与する仕事を行った。ワーカーズコープの組織としても、各地の農業、林業関係の団体とのネットワークを深め、田舎で働き生活することの大変さを理解するとともに、自然、土、水の大切さを学んだ。このつながりや学びはいまも農業、環境分



千葉・芝山の菜の花畑



田舎で働き隊の一コマ

野の事業において生きている。

そこに発生した「東日本大震災」は、今までの1次産業、エネルギー利用、地域のきずなの見直しを私たち迫り、価値観を一変させた。そして、一気にワーカーズコープの事業の中に地域循環、地産地消の流れを推し進めた。各地の事業所では地域を巻き込んで、菜の花を植え、畑や田んぼを借りての耕作、農産物加工品の取り扱い、直売所や道の駅など幅広く取組みが始まって

いる。

とはいっても、多くは社会連帯的な活動であり、経済性、事業性を問われる1次産業のハードルは高い。

今回の委託研究の意義は、ワーカーズコープが取組む農業の意味はなんなのか、協同労働で取り組む農業は事業として成立するのか、それらの点を全国各地の農に取り組むワーカーズコープの事業所のネットワークの中から、明らかにしていく。

#### 労協連委託研究2011年度報告書執筆担当者一覧

##### 食と農と環境を結んだ仕事起こしー農業ネットワーク会議を中心に

はじめに	管 剛文(協同総研専務理事)
第1章 委託研究の目的・状況・経緯そして課題	榎本 木綿(協同総研事務局長)
第2章 農業ネットワーク会議	古谷 直道(協同総研副理事長、シニアe-研究員)
第3章 地域支援型農業CSAという方式	島田 圭一郎(協同総研顧問、シニアe-研究員)
第4章 「農業生産と流通」方式アンケート集計結果	古谷 直道
第5章 労協型のCSA推進と具体的活動課題	島田 圭一郎
第6章 労協型のCSAをいかに構築するか	島田 圭一郎、古谷 直道
おわりに	管 剛文
補足資料1：農力アンケート(ワーカーズコープの農への取組みについて)	
補足資料2：「農業生産と流通」方式アンケート	